

## 第4章

# 中央区の未来につなぐ レガシー



# 1 レガシーの方向性

本区は、東京2020大会の開催を良好なまちづくりを進める絶好の機会と捉え、平成27(2015)年3月に大会後のレガシーを見据えて「2020年に向けた中央区の取組」として取りまとめ、「スポーツ」「国際教育・交流」「観光・文化」「防犯・防災」「まちづくり」の5分野の総合的な推進に取り組んできた。

大会に向けた取組においては、子どもから高齢者まで多くの区民の参加を促進し、分野を超えた多種多様な団体・機関が連携・協働して活動するなど、貴重な機会となった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により社会活動は大きな制約を受け、大会も原則無観客開催になるなど大幅に運営が見直され、本区が計画を進めてきたおもてなしセンター／コミュニティライブサイトやボランティア活動、競技観戦などの多くの大会関連の取組も中止又は規模縮小を余儀なくされた。

大会期間中は緊急事態宣言下という厳しい状況ではあったが、実施可能な気運醸成事業・地域の魅力発信事業については、安全確保を第一として感染症対策の徹底やオンライン配信などの新たな手法を取り入れながら可能な限り展開するとともに、大会時の交通対策や選手村セキュリティに関する地域への情報提供などにも取り組んだ。

コロナ禍での大会開催には社会的な不安の声も挙がったが、安全を最優先にした大会運営が実現され、大きな問題無く大会を終えられた。直接的な競技観戦はかなわなかったものの、映像を通して目標に向けて挑戦するアスリートの姿は、多くの人に希望と勇気を伝えた。

こうした大会がもたらした感動や、次代を担う子どもたちとアスリートとの交流、オリンピック・パラリンピック教育から学んだ多様性を尊重する気持ちなど、大会を通じた経験をかけがえない心のレガシーとして継承していくことが大切である。

そして、これまでオール中央区の体制で大会に向けて推進してきた障害者スポーツの普及、都市観光の推進、ボランティアマインドの醸成、バリアフリーのまちづくりなど、ソフト・ハード両面のさまざまな取組を一過性のものとすることなく、レガシーとして中央区の将来の発展につなげていく。

## 2 本区が目指す姿とレガシーの取組

感染症拡大による制約を受けながらも、大会に向けて重点的に進めてきた5分野の取組を軸にしながら、次の3つの視点を踏まえて大会レガシーの取組を推進していく。

- 大会を契機に社会的意識・関心が高まった取組を継続・発展させ、思いやり・ふれあいのある区民生活や本区のにぎわいの創出につなげていく。
- 区民が参加し、盛り上げてきた大会の記憶、記録を区民の共有財産として次世代に引き継いでいく。
- 地域とともに進めてきた晴海地区の将来のまちづくりに当たっては、大会の資産を活用しながら着実に実現させていく。

分野	本区が目指す姿
スポーツ	誰もがスポーツに親しめる機会を創出し、健康でいきいきとした社会を実現
国際教育・交流	グローバル人材の育成と、思いやり・ふれあいのあるまちの実現
観光・文化	歴史と未来が交差する都市観光の推進により、さらなるにぎわいを創出
防犯・防災	安全・安心を実感できるまちを目指し、地域の防犯・防災体制を構築
まちづくり	誰もが住みやすく、訪れやすい都市環境の実現

国内外から多くの人々が集い、誰もがあこがれるまちへ

### ■生涯スポーツ社会の実現

- 東京2020大会開催によるスポーツ意識の高まりを活かし、子どもから高齢者まで幅広い世代のスポーツ実施層拡大に向けたスポーツ教室の充実
- 感染症対策マニュアルのさらなる充実や、感染拡大防止に対応した新たなスポーツ様式の検討によるスポーツ実施率の向上

### ■身近な地域でスポーツを楽しめるまちづくり

- 誰もが身近な地域でスポーツができるよう、地域スポーツクラブの設立・育成の支援
- 民間企業等との連携により、広くスポーツの場を確保
- 選手村跡地に整備予定の晴海西小学校（仮称）・晴海西中学校（仮称）におけるスポーツ開放
- 3x3 バスケットボール公式練習会場のレガシーとして、安全性と景観の向上を図る浜町公園バスケットボールコートデザインの整備



▲浜町公園バスケットボールコートのデザインイメージ（担当アーティスト 今井俊介氏）

### ■スポーツを通じた共生社会の実現

- パラスポーツの盛り上げを継続・発展させる障害者ボッチャ大会に向けた交流会の実施
- 地域スポーツクラブと協働し、障害のある方が、定期的に身近な地域で身体を動かせる機会の提供
- 障害者スポーツを支えるスポーツ推進委員等の人材育成と資質向上の推進



▲地域スポーツクラブ大江戸月島による障害児・障害者対象のスポーツ教室

### ■区民とともに盛り上げた大会の感動と記憶を共有

- 東京2020大会中央区の記録（報告書）、大会関連映像の制作
- 大会を象徴する物品やオリンピック・パラリンピアンサイン・メッセージが記載された記念品などの活用

レガシーの取組

国際教育・交流

グローバル人材の育成と、思いやり・ふれあいのあるまちの実現

■子どもたちのグローバルな視野の育成

- 学校教育の中で、オリンピック・パラリンピックの意義や理念を学び、外国との交流などを通じて育んできた異文化や障害を理解して多様性を尊重する姿勢などを醸成し、グローバル社会で活躍できる人材を育成



▲中央区版「一校一國運動」(佃中学校の韓国人講師による国際理解教室)

■オリンピック・パラリンピック教育を継承する  
学校・幼稚園2020レガシーの展開

- 各学校・幼稚園が取り組んできたオリンピック・パラリンピック教育の活動のうち、教育効果が高く、特色ある活動を大会後もレガシーとして展開
- 東京2020大会で使用された表彰台、メダルスタンド等を子どもたちの大会の記憶をつなぐレガシーとして小学校における学校活動で活用



▲ハートフルスポーツ(中央小学校におけるアイマスク、車いす体験)



▲大会で使用された表彰台等

■大会を通じて培われた区民の平和意識とおもてなしの心を継承

- 平和への願いとおもてなしの心をつなぐレガシーとして、折り鶴ウェーブのオブジェを大会1周年イベントで活用。また、ほっとプラザはるみリニューアル後の施設内に常設展示
- 区立小学校全校の「オリンピック・パラリンピックと平和」をテーマとした平和モニュメントを適切に管理し、晴海第三公園で引き続き公開



▲多様な言語で選手のサイン等が書き込まれた折り鶴オブジェ

■あらゆる世代の国際意識を向上

- 日本人と外国人の文化交流の場となる「日本語教室」や「国際交流のつどい」、「国際交流サロン」などをボランティアの主体的な運営により引き続き開催し、区民の国際意識を向上



### ■インバウンド需要の回復を見据えた効果的な観光情報の発信

- 大会に向け構築した多言語のウェブサイトやプラットフォーム、回遊ガイドマップ、広告手法等を活かし、外国人旅行者などの潜在層も含め効果的に世界へ情報発信
- 区内伝統工芸品産業の紹介冊子による外国人旅行者への時機を捉えたPR
- まちかど展示館の情報発信における多言語対応を一層促進

### ■大会を契機に広がったボランティア等の継続的な育成、活動支援

- 東京都のプラットフォーム「東京ボランティアレガシーネットワーク」も活用しながら、外国人おもてなし語学ボランティアなどボランティア活動の支援
- 中央区民カレッジにおける外国語によるおもてなしを強化する「英会話講座」や「ボランティア向け英会話研修」の受講者、観光協会の「観光おもてなしスタッフ」などの人材を都市観光の担い手として育成し、区民のボランティア活動の定着を図る
- 飲食業等の従業員向け外国人旅行者おもてなし接客講座を活かす演習等の検討

### ■観光施策全体が機能し合った区内回遊環境の提供

- 観光案内施設や情報発信ツール、ボランティア、観光案内標識、公衆無線LANサービス、微細ミストなど暑さ対策、花の装飾など、大会に向けて整備・充実させた観光の取組全体が機能し合い、快適なまち歩きが堪能できる環境を提供



▲区内観光案内施設のネットワーク化により、観光情報の提供体制を強化



▲観光情報集約サイトの開設など非接触の情報発信による誘客の推進



▲英語版ガイド「Time Out」により、外国人旅行者目線の回遊スポットを紹介



▲ボランティアを都市観光の担い手として育成・活用



▲観光案内標識により多言語で地図情報を提供



▲暑さ対策、公衆無線LANサービス等により快適なまち歩き環境を提供

レガシーの取組

防犯・防災

安全・安心を実感できるまちを目指し、地域の防犯・防災体制を構築

■区民への防犯知識の普及・啓発や地域の防犯活動への支援等を通じて、地域ぐるみの防犯体制を確立

- 区民の防犯意識の向上を図る広報紙、ハンドブック、メール等の媒体を活用した防犯情報の発信や相談事業の普及を推進
- 防犯協会等への支援を通じて、パトロール活動等による地域のつながりや防犯意識の輪を地域全体に拡大
- 地域の防犯設備の設置を支援し、面的な整備を進めていくとともに、適切な設備更新・維持管理により地域の防犯力を強化
- 繁華街における客引き行為等の防止を図る地域のパトロール活動を支援し、国内外からの来街者も安心してまち歩きができる環境を創出



▲防犯協会と連携し、地域の防犯意識を啓発

■ソフト・ハード両面における地域防災力の強化

- 災害に強い情報伝達手段の活用や効率化による情報提供体制の確立
- 防災区民組織が迅速かつ的確な応急活動を行えるよう、引き続き防災資器材の供与を行っていく
- 晴海地区の人口増加に対応する防災拠点の整備



▲防災拠点を設置予定の晴海西小学校（仮称）  
・晴海西中学校（仮称）完成イメージ

■関係機関・地元との連携体制の確立による安全なまちづくり

- 選手村周辺のセキュリティ計画や交通対策など、大会を通じて培った関係機関や地元との連携体制、調整・協議のノウハウを今後の安全・安心なまちづくりに継承

### ■選手村レガシーを活かした晴海地区における 公共・公益施設の整備

- ビレッジプラザの木材を後利用した晴海西小学校（仮称）・晴海西中学校（仮称）、晴海特別出張所（仮称）等複合施設の整備
- 「ほっとプラザはるみ」のリニューアルにあわせた折り鶴オブジェ等の展示
- 選手村エリアにおける大会レガシーにふさわしい機能性と景観を持つ道路整備

### ■都心部と臨海部を結ぶ公共交通機能の拡充

- BRTの本格運行とともに、都バス、江戸バス、コミュニティサイクル、舟運など多様な交通の結節機能を備えたマルチモビリティステーションの整備

### ■環境先進都市のモデルとなるまちの実現

- 水素エネルギーの新技术活用による車両供給及び街区供給
- 大会で使用された水素燃料電池車を本区公用車に率先して導入
- 中央清掃工場余熱利用設備の整備による新設小・中学校温水プール等への熱供給

### ■誰もが安全・安心に快適に暮らし、気軽に外出できる環境の整備

- 区民参加型バリアフリーマップの最新情報への更新
- 歩行者の通行量が多く公共性の高い施設周辺等における道路のバリアフリー化や低騒音舗装、遮熱性舗装などの推進により快適な歩行環境を整備
- 安全な自転車利用や自転車環境の整備



▲道路の拡幅・バリアフリー化

### ■大会開催の記念を街中に残し、大会の記憶を次世代に継承

- 大会が行われた区内施設3カ所にレガシー銘板を設置（3x3 バスケットボール公式練習会場／総合スポーツセンター、オリンピック聖火リレー点火セレモニー／浜町公園、パラリンピックマラソン／東日本橋交通導流島街角広場）
- 選手村のおもてなしプランターを活用した花のみどころづくり（石川島公園、黎明橋公園、左衛門橋南東児童遊園）



▲石川島公園におけるおもてなしプランターの活用



# 3 晴海地区の将来のまちづくり

東京都は、本区が地域とともに平成26(2014)年12月に策定し、提出した晴海地区将来ビジョンを踏まえ、大会のレガシーとなるまちづくりの実現に向け、BRT等の交通環境の整備、先端技術の導入による低炭素化や省エネルギー化の促進、水辺環境を活かした公園の整備など、多様な人々が交流し快適に暮らせるまちづくりを進めている。

本区においても、地域住民の生活の質及び利便性の向上に資するよう、晴海西小学校(仮称)・晴海西中学校(仮称)や晴海特別出張所(仮称)等複合施設のハード整備に取り組むなど、選手村のレガシーを活用しながら地域のさらなる発展につながるまちづくりに向け、東京都と綿密に連携しながら推進している。

また、ソフト面においては、地域が主体となり快適な暮らしを実現するために、令和2(2020)年9月、地域住民や事業者からなる「晴海コミュニティ構想検討会議」を設立し、晴海に住み・働き・集うすべての人々が自発的に地域における課題解決を行う「晴海版プロアクティブ・コミュニティ」の確立に向けた検討を進めるなど、令和6(2024)年の新たなまちびらきに向け、地域とともに取り組んでいる。

## 1 東京都による東京2020大会後のまちづくりのコンセプト

### ア 多様な人々が集い、快適に暮らせる活気あふれるまちに

都心に近接した立地特性を生かして多様な世代・地域・文化の交流を促すとともに、周辺の地域と連携することにより、「住」「楽」「業」「学」「育」「健」が充実した都市空間を創出

### イ 水と緑に親しみ、憩いと安らぎが感じられるまちに

海が前面に開かれ、緑につつまれ、都市と自然が調和した魅力的な空間において、憩いと安らぎが得られる成熟した都市生活を実現

### ウ 新技術の活用により、環境に配慮した持続可能性を備えたまちに

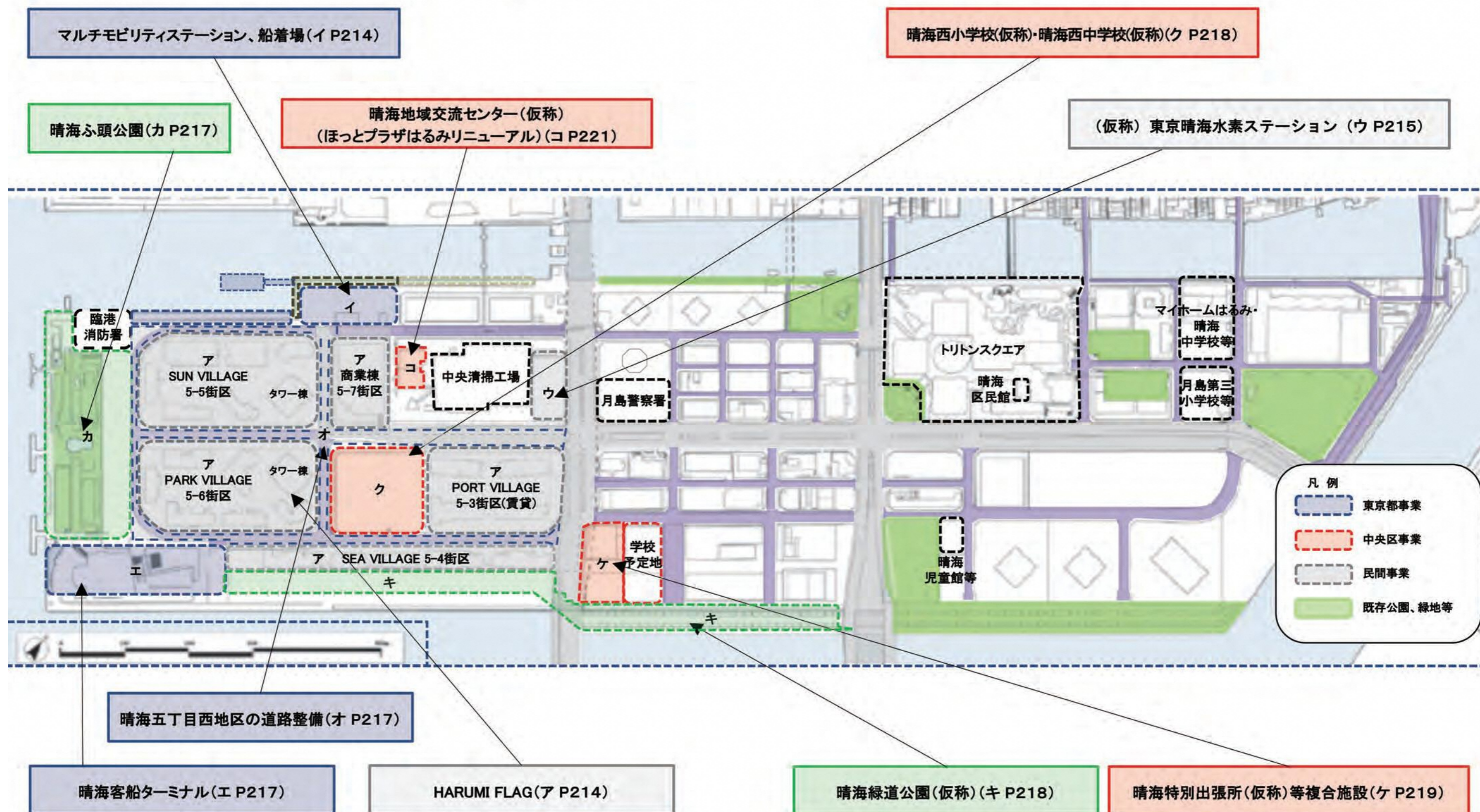
先進的な水素エネルギー・省エネルギー技術やエネルギーマネジメントをインフラ整備や日常生活に取り入れ、防災力を高めた自立分散型スマートエネルギー都市を確立



▲東京2020大会後の選手村のイメージ(市街地再開発事業の完了時)  
※晴海客船ターミナルの建物は大会後に撤去予定です。ただし、代替施設(詳細未定)において、引き続き客船の受け入れを行っています。©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者



2 晴海地区における東京 2020 大会後の施設整備



※令和4(2022)年1月時点での予定であり、今後変更する可能性もあります。



## ア HARUMI FLAG (民間事業)

東京都が晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業において選定した特定建築者による開発区域のタウンネーム。分譲・賃貸住宅のほか、商業施設、保育施設、介護住宅なども整備される。

### ① 概要

開発面積：約13ha

住戸数：5,632戸（分譲住宅4,145戸、賃貸住宅1,487戸（シニア住宅、シェアハウス含む））

建物棟数：住宅棟（板状）21棟

住宅棟（タワー）2棟

※令和7（2025）年度竣工予定

商業棟1棟

計画人口：約12,000人

### ② 大会のレガシー

大会時に使用された標識や案内板を、大会のレガシーとして活用



▲東京2020大会後の選手村のイメージ（上 住宅棟／下 商業棟）©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者



▲大会時に使用された標識、案内板をレガシーとして活用（左右写真）©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者

## イ マルチモビリティステーション、船着場 (東京都事業)

東京都は、BRTをはじめ、路線バスや、コミュニティサイクルなどを導入し、暮らしの足を支える交通広場としてマルチモビリティステーションを整備する。

あわせて、水辺の立地を生かして、バリアフリーにも配慮した船着場を一体的に整備する。

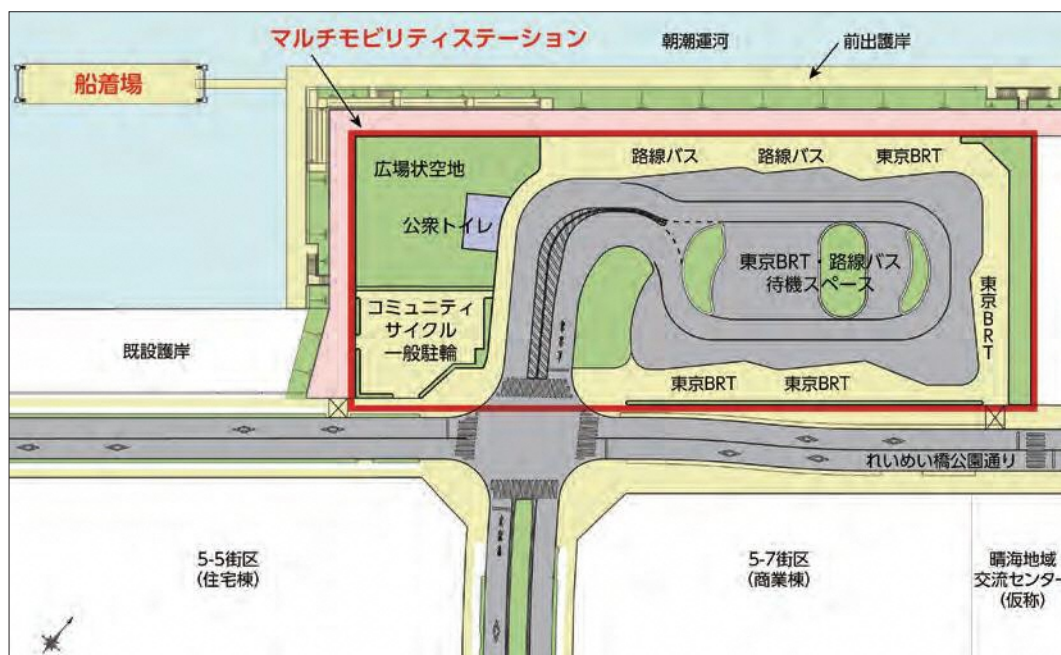
（供用開始予定：令和6（2024）年春）



▲マルチモビリティステーション完成イメージ ©東京都都市整備局

① マルチモビリティステーション導入機能

- BRT 停留施設 (4カ所)、路線バス停留施設 (2カ所)、コミュニティサイクル、一般駐輪場、公衆トイレ、広場



▲マルチモビリティステーション配置イメージ ©東京都都市整備局

② 大会のレガシー

- 公衆トイレに設置される目隠し板を市松模様のデザインで施工



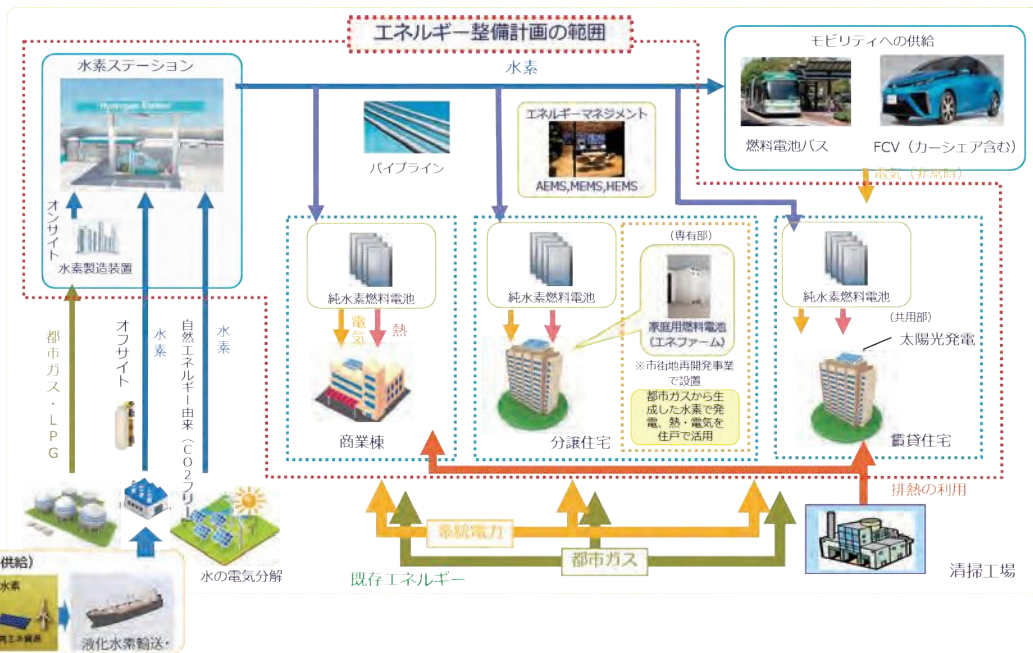
▲市松模様にデザインされた公衆トイレの目隠し板イメージ

ウ 選手村地区エネルギー事業 (東京都事業、区事業、民間事業)

東京都は、水素エネルギーなどの新技術の活用により、環境に配慮した持続可能性を備えた環境先進都市のモデルとなる都市として、その実現を目指している。

本区は、東京都と連携しながら水素エネルギーの普及啓発や中央清掃工場の余熱を有効に利用して熱の供給を行うなど、まち全体で高い水準の低炭素化や省エネルギー化を促進していく。





▲選手村地区エネルギー整備計画の範囲イメージ ©東京都都市整備局

① 事業の特色

- 水素ステーション、水素パイプライン、純水素型燃料電池を整備
- 燃料電池バスなどの車両への水素供給や、パイプラインを通じた街区への水素供給（パイプラインによる街区への水素供給は、実用段階としては国内初）
- 水素普及を見据えたモデルとし、低炭素社会の先駆けとなる取組
- 水素の優れた貯蔵性を活かし、災害時の自立性を向上
- 中央清掃工場の余熱を小・中学校の温水プール等に供給することで、エネルギーの有効活用を図る。



▲水素ステーション完成イメージ 出典：ENEOS株式会社



◀水素パイプラインの敷設イメージ ©東京都都市整備局

### エ 晴海客船ターミナルの解体（東京都事業）

東京都は、東京国際クルーズターミナル（江東区青海）を令和2（2020）年9月に開業したことに伴い、既存の晴海客船ターミナルは解体し、代替となる客船受入施設の整備を予定している。

解体予定工期：令和4（2022）年7月～令和5（2023）年7月末

### オ 晴海五丁目西地区の道路整備（東京都事業）

東京都は、建築物、道路、水辺、公園等が一体となった個性と快適性を備えた美しく豊かな都市景観を創出するとともに、地域の多様な人々の交流を支え、東京2020大会のレガシーにふさわしい風格のある道路の実現に向け整備を行っている。

#### ① 概要

- 水道、下水道、ガスなどのライフライン施設の埋設
- 道路のバリアフリー化
- 防災性の向上や景観配慮のための電線地中化
- 多様な緑のネットワークによる緑化環境の形成
- 夏の暑さ対策として、車道の遮熱性舗装の採用

#### ② 大会レガシー

- 晴海中心軸のインターロッキング舗装を市松模様のデザインで施工



▲建築物、水辺、公園等と一体的な景観の道路（イメージ）  
©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者



▲市松模様にデザインされた晴海中心軸のインターロッキング舗装 ©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者

### カ 晴海ふ頭公園（東京都事業）

東京都は、平成30（2018）年11月から令和2（2020）年5月まで既存の晴海ふ頭公園の再整備工事を行い、大会終了後、開園に向けた追加の整備を行っている。

（供用開始予定：令和4（2022）年秋）

#### ① 概要

- 面積3.6ha（整備前から1.1ha増）
- 公園中央には広大な芝生の多目的広場を設け、海辺に開かれた開放的な空間を創出
- 主要な出入口となる展望広場には人々の憩いの場、海を眺める場となる水景施設や階段テラスを設置



▲晴海ふ頭公園完成イメージ ©東京都港湾局

- 大型遊具のある遊びの広場を設置
- 海・船を眺めながらジョギングが可能な園路や海辺のテラスを整備
- 桜のお花見ができる花木のテラスを整備
- 飲食店の設置・運営などを行う官民連携施設事業を実施



▲晴海ふ頭公園に設置した大会の記録を伝える看板  
©東京都港湾局

② 大会のレガシー

- ビレッジプラザで使用された木材を、公園に設置されるパーゴラやベンチに再利用
- 大会時に選手村が設置されたことを記録として伝える銘板・看板を設置

### キ 晴海緑道公園（仮称）（東京都事業）

晴海四、五丁目の海沿いに新たに整備された公園。東京都は、令和元（2019）年6月から令和2（2020）年4月まで整備工事を行い、大会終了後、開園に向けた追加の整備を行っている（供用開始予定：令和4（2022）年秋）。



▲晴海緑道公園（仮称）完成イメージ ©東京都港湾局

晴海ふ頭公園から晴海客船ターミナルと晴海緑道公園を經由して、歩行者の動線を晴海二丁目の晴海臨海公園につなげることで、晴海地区の水辺の周遊性向上が図られる。

① 概要

- 面積3.6ha
- <晴海四丁目側>
  - 展望散策路と海辺散策路をつなぐ幅約70mの階段テラスを設置
- <晴海五丁目側>
  - 約2.5mの高低差がある斜面地空間にジョギング散策路、さまざまな健康遊具のある憩いの広場などを設置
  - 斜面上部に海の景観を楽しむ展望広場を整備

② 大会のレガシー

- ビレッジプラザで使用された木材を、公園に設置されるパーゴラやベンチに再利用

### ク 晴海西小学校（仮称）・晴海西中学校（仮称）（区事業）

大会後の選手村跡地の開発に伴い、児童・生徒数の増加が見込まれることから、新たな学校施設を晴海地区に建設する。学校関係者、地域住民と区及び教育委員会で構成する建設準備協議会での検討を経て、令和元（2019）年度に設計を取りまとめた。

① 概要

- コンセプト「輝く未来を地域と築く、新しいまちの学び舎」
- 小中一体整備の利点を活かし、ゆったりとした空間を確保するとともに、緑豊かな環境を実現する。
- 地域活動の拠点となるよう、積極的に体育館やプール等の地域開放を行うとともに、防災の拠点としても機能するよう設備の充実を図る。



- 選手村レガシーを活用しつつ、将来にわたって地域の拠点であり続けるよう、まちの成長や社会の変化に対応する可変性を持たせ、地域とともに成長していける施設を目指す。
  - 主要用途 小学校、中学校
  - 規模 地上5階、地下1階
  - 教室数 小学校 30クラス  
中学校 15クラス
  - 供用開始 令和6(2024)年4月予定
- ② 大会のレガシー
- ビレッジプラザで使用された木材を再利用して、1階ホール（小学校メモリアルスペース）にビレッジプラザの内観イメージをベースとしたオブジェを配置
  - 選手村村長、副村長から児童・生徒たちへ送られたメッセージを展示  
(詳細は82ページを参照)



▲晴海西小学校(仮称)・晴海西中学校(仮称)完成イメージ



▲晴海西小学校(仮称)・晴海西中学校(仮称)での木材再利用イメージ

## ケ 晴海特別出張所(仮称)等複合施設(区事業)

本区では、大会後の新たなまちづくり、地域の安全・安心な生活と利便性の向上及び豊かな地域コミュニティの形成を持続的に推進していくため、晴海特別出張所(仮称)等複合施設を整備する。

### ① 概要

- 日常の生活や交流を支える子育て支援、教育・文化行政サービス等の機能を効果的に集約する。
- 周辺の街並みや水辺の景観との調和等に配慮しながら、親しみやすくシンボル性のある施設とする。
- 誰もが安心して訪れ、過ごすことができるよう、ユニバーサルデザイン及び防犯・防災



▲晴海特別出張所(仮称)等複合施設完成イメージ



に配慮する。

- 主要用途 特別出張所、おとしより相談センター、幼保連携型認定こども園、図書館、保健センター
- 規模 地上6階、地下1階
- 開設 令和6(2024)年4月予定。図書館は同年7月予定

## ② 大会のレガシー

- ビレッジプラザで使用された木材を、図書館の枝状木ルーバーの一部として再利用
- ビレッジプラザの模型(建物全体、構造枠組み)、木材活用リレーの紹介パネルを展示
- ビレッジプラザの壁に日本選手団から寄せられたサインを展示
- 認定こども園等に通う子どもたちに対して選手村村長、副村長から送られたメッセージを展示(詳細は82ページを参照)
- 東京都、東京2020組織委員会等の関係機関と連携し、大会や選手村の記憶とアスリートの活躍を後世に伝えるレガシー物品の展示・活用を検討(調整中)



▲晴海特別出張所(仮称)等複合施設での木材再利用イメージ(外観)



▲晴海特別出張所(仮称)等複合施設での木材再利用イメージ(内観)



▲ビレッジプラザの模型(建物全体)



▲ビレッジプラザの模型(構造枠組み)



▲ビレッジプラザの壁面に寄せられた日本選手団のサイン



▲木材活用リレーの紹介パネル

## コ 晴海地域交流センター（仮称）（ほっとプラザはるみのリニューアル）（区事業）

開設から約20年が経過し、施設が大規模改修の時期を迎えている中、晴海地区に新たなまちができることを踏まえ、地域のあらゆる世代が集い、にぎわいと交流、地域コミュニティの核となる施設へとリニューアルを行う。



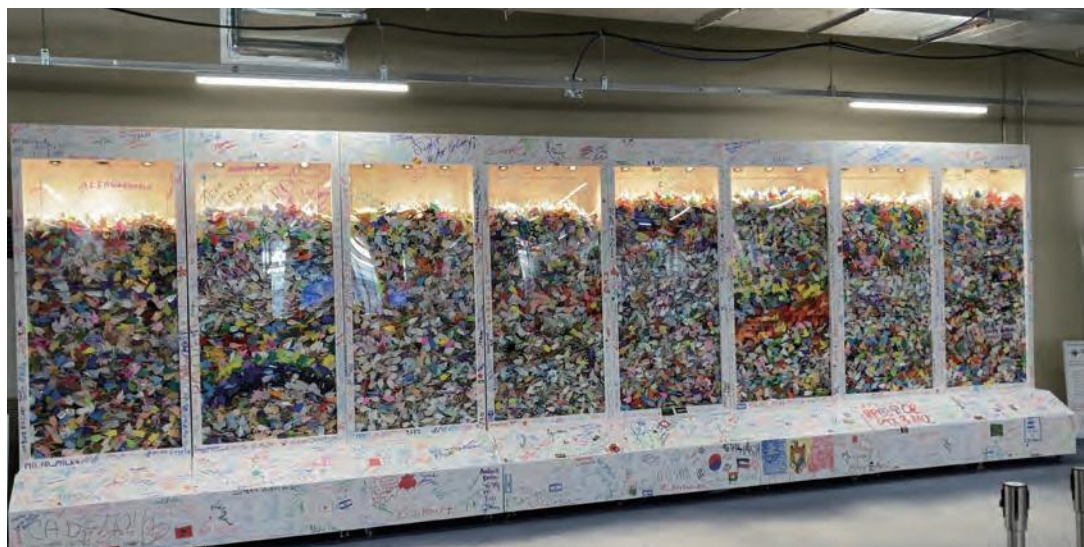
▲ほっとプラザはるみリニューアル後のイメージ

### ① 概要

- 地域主体の活動を生み出す施設としていくため、住民等の意見を取り入れながら、リニューアルを進めている。
- 予定工期 令和3(2021)年11月～令和5(2023)年9月

### ② 大会のレガシー

- 選手村で、選手・大会関係者から多数のサイン等の書き込みがされた折り鶴オブジェ及びミニオブジェを展示
- 日本選手団がほっとプラザはるみを使用したことの記念として寄贈されたメダリストのサイン入りTシャツをリニューアル後の施設に展示



▲折り鶴オブジェ

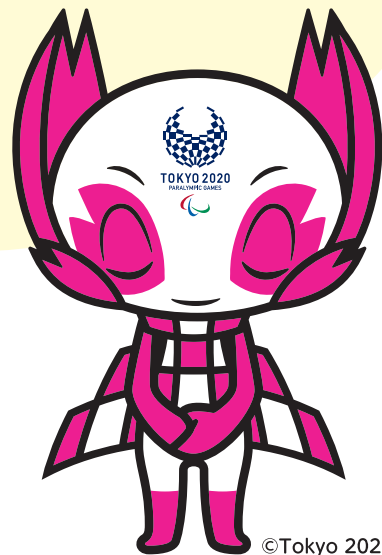


▲折り鶴ミニオブジェ



▲日本選手団メダリストのサイン入りTシャツ

東京2020大会への応援と、  
本区の取組へのご理解・ご協力を  
ありがとうございました



©Tokyo 2020

# 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 中央区の記録

令和4(2022)年3月

● 編集・発行 ●

中央区企画部オリンピック・パラリンピック調整担当課

東京都中央区築地一丁目1番1号

電話 03(3543)0211(代表)

● 印 刷 ●

株式会社 成光社

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-9 小伝馬ファインビル3F

電話 03(3808)0703

刊行物登録番号 3-084

本書の内容について許可なく転載・複製することを禁じます。







